

雨中の長時間待機が分かっている場合はもちろん、突発的な雨の場合も想定して、薄手のものでもウィンドブレーカーやレインウェアなどの防風・防水のシェルウェアは荷物に加えておくようにしたい。



しかし、ただでさえ持ち物が多いコミケット。限られた荷物の中に雨対策装備も加えるのはなかなかハードルが高い。また、ゲリラ豪雨の際には一瞬で叩きつけるような雨が降り出すので、ろくに防御を固める時間もないことが珍しくない。これらのことを踏まえれば、雨専用という装備品は最低限として、他の暑さ対策などと共有化された装備を整えるのが望ましい。

タオルや手ぬぐい、帽子を忘れずに、乾きやすい衣服を選択することは日射し対策、汗対策にもなる。防水や逆に濡れても大丈夫な靴、しっかりした防水性能を持ったバッグ類の用意は自分の機動力を守り戦利品を護るための基本のキだ。晴れていても会場で購入した物はとりあえずビニールバックやブラケースに入れる習慣をつけておけば降り出してから慌てずに済む。

繰り返すが、夏の雨は一度降り出したら悠長に雨具を着けたり、カバンを防水している時間はない。その時に不幸にして屋外に居たなら、全く濡れない、濡らさずに済むことはまずあり得ないので、ある程度割り切りは必要なのだ。それを踏まえて着ていく服や持っていくバッグ、履いていく靴を吟味しよう。



東地区の場合、普段は会場外のトラックヤードで行われている宅配便の集配も雨の際には館内に移動して行われる。しかし、そうなった場合には概ね、長蛇の行列ができてしまう。スペースに余裕の無い館内では、本来の場所ほど手早く作業ができないためだ。

この行列はコミケット閉会後にも及ぶので、ハマりたくなければ早め早めに動き始めるよりほかない。降雨の場合は宅配便の場所変更の放送が入るので会期中にそれを聞いたらその時点からすぐに対策を講じ始めた方がよいだろう。

もし集配列に並んでいる際に雨が降りだすと話はより厄介なことになる。荷物を持って並んだまま、ゆっくりゆっくり館内に移動しなければならず、その間は濡れ放題だ。

したがって、サークル参加者も雨の情報には敏感になる必要がある。

荷物を集配に出しに行く前にまず空模様を確認し(※)、怪しいようなら荷物を防水し、運ぶメンバーも雨具の用意をしていこう。既に雨が降っていて屋内で集配が行われている場合は長時間の待機になる場合がある。予め残るメンバーと閉会・撤収後の待ち合わせ場所を決めて、できれば荷物は台車やカートに載せて運ぶとよい(長時間のハマりに陥った場合、ずっと手で持っているのは非常に大変だからだ)。



※これは逆に晴天の場合でも同様で、荷物を出しに行く前には天候を確認し、帽子や上着などの日よけと汗拭きタオル、ちょっとした飲物は必ず持って出かけよう。疲れているところに夕方の強烈な日射しや屋外の高い気温はなかなかキツイ。ここで倒れては元も子もないぞ!

●サンダルは危険です。

『熱がこもらず、万一濡れてもすぐ乾く履物』と言えばやはりサンダルが一番に思い浮かぶだろう。しかし、コミケット会場は場所によっては誰が自分の足を踏んだのかも定かではないくらいに混雑している。もちろんサンダルで足を踏まれたら大ダメージ、爪先が露出しているタイプでは爪でも割れたら即行動不能だ。

そうでなくても丸一日右へ左へと歩き続けるのに、細いストラップに体重が集中するサンダルは靴ずれの危険も大きいし、待機列でうかつに足の甲を日焼けでもしようものならやはり行動に支障をきたしてしまふ。足全体を包んでいてもルーズなウレタンサンダルは踏ん張りが利かずよけいに疲労が蓄積しやすくなる。

きちんとしたアウトドアブランドのスポーツサンダル等、しっかりした造りで、少なくとも爪先とかかとかがっちりガードされているタイプ以外のサンダルは、コミケットには明らかに不向きなのである。男女共に、できるだけ避けた方がよいだろう。

